

平成29年度小松市立学校月津小学校 学校評価

めざす児童生徒像

○ 学び続ける意欲を持ち、学んだことを生活に生かせる子
 ○ よく気づき、友だちや学校のために進んで行動できる子
 昨年度より児童も教師も「行きたい学校」を目指して、「自分たちで楽しい授業を創る、人を幸せにする活動を推進する」を重点に取り組んできた。その結果、授業で発言する児童、人のために活動する児童の数は増え、「月津小をいい学校にしよう」という機運が高まっている。
 今年度は、急速に変化する社会に対応して行くには、小学校期には、学びに向かう力の育成が特に必要と考え、学ぶ意欲と学びに必要な資質（課題設定、挑戦、根気、他者尊重等）を授業はもちろん、教育課程全体の活動を工夫することで育てていきたい。

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間				年度末				達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			※差	数値・アンケート結果 (%)			※差		
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者			
学校重点項目 (学校で設定)	学ぶ意欲の向上	キャリア教育 ①②の項目を70%以上にする	① 友だちの話や考えがわかるように、最後まで聞いている。	71.4	99.4	▲	28	85.7	92.9	▲	7.2	・学ぶ意欲の向上は、4項目で児童の肯定的割合が減少し、職員と保護者の肯定的割合が増えた。2学期の取り組みにより、めざす姿が児童と職員の間で共有できたという良い面もあるが、肯定感の割合の減少は学級により異なっていた。	・学級により肯定感が異なっているので、学級ごとに分析と改善策を考え、結果と共に児童と共有して改善に向かう。 ・できたこと・取り組んだこと・挑戦したことを認め、褒める。
			② 活動する時に、自分でめあてを決めて取り組んでいる。	85.7	98.1	▲	12.4	100	95.5	▲	-4.5		
			③ 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している。	57	98.7	74.9	41.7	71.4	96.1	77.7	24.7		
			④ 授業や家庭学習では、進んで学んでいる。	71.4	97.4	▲	26	85.7	93.7	▲	8		
			集計	71.4	98.4	▲	27.0	85.7	94.6	▲	8.85		
学校重点項目 (学校で設定)	豊かな人間性 集団生活の充実	全ての項目を80%以上にする	① 「行きたい学校」をつくるため、学校やクラスのことを考えて行動している	86	97.4	▲	11.4	85.7	92.2	▲	6.5	・「ありがとう」を伝えることは、職員も児童も共に肯定的割合が高くなったが、他の3項目については、児童の肯定的割合が減り、保護者の挨拶の割合が増えた。お手伝いについては、児童保護者共に低くなっている。	・教師からだけでなく、児童からもよい行動や感謝の気持ちを表すことのよさを児童にも知らせ、一緒に認めていく。 ・お手伝いについては、2月の懇談会の話題にしたたり、お便りで啓発したりする。
			② 家で進んで手伝いをしている	▲	87.7	73.3	▲	85.7	72.3	▲	▲		
			③ よいことをしてくれる人を見たら、「ありがとう」の気持ちを伝えている。	92.3	95.5	▲	3.2	100	97.4	▲	-2.6		
			④ 自分から進んで挨拶をしている。	100	97.4	82.4	-2.6	100	96.8	84.6	-3.2		
			集計	92.8	94.5	▲	1.7	95.2	93.0	▲	0.2		

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)				数値・アンケート結果 (%)				達成状況の分析	改善策	
				数値・アンケート結果 (%)			※差	数値・アンケート結果 (%)			※差			
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者				
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究 ①③⑤の項目を80%以上にする	① 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている	100	▲	▲	▲	100	▲	▲	▲	・⑤については、「授業に関する項目」②③④⑥について共通理解や共通実践が徹底できるよう働きかけを行った結果、A評価が30.8%でまだまだ低い。 ・②については、研究授業に伴う模擬授業や授業整理会などで主体的・対話的な学びにつながる工夫を検討・実践・検証してきた結果、A+B評価が100%になったが、A評価が46.2%と中間時より下がっている。	・⑤について、「授業に関する項目」②③④⑥について、共通理解・共通実践が徹底できるよう働きかけを行い、月ごとにより検証していく。 ・②について、教材研究に関するOJTを設けて研修を行い、日々の授業改善に生かす。	
			② 学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	85	▲	▲	▲	100	▲	▲	▲			
			③ 指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校している	100	▲	▲	▲	100	▲	▲	▲			
			④ 教員一人一人が授業研究を伴う校内研修を計画的に実施している	100	▲	▲	▲	100	▲	▲	▲			
			⑤ 共通実践の大切さを理解し、全職員で全校児童を育てる意識をもって取り組んでいる。	91.7	▲	▲	▲	100	▲	▲	▲			
	指導力の向上	授業 ①③④の項目を80%以上にする	① 児童生徒が自ら設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組んでいる	100	98.1	▲	-1.9	100	93.7	▲	-6.3	・①について、教師は58.3%、児童は53.4%がA評価としており、児童は中間時より下がっている。 ・②③④については、教師・児童ともにA評価の割合は低い。特に④は「よく行っている」と回答する教師が33.3%と低い。授業におけるタイムマネジメントをしっかりと行う必要があると考えられる。また、児童とめざす姿を再度しっかり共有し、スモールステップで認めていくことが必要だと考えられる。 ・⑥について、教師の肯定的な回答が100%になったが、A評価は45.5%とまだまだ低く、聞く力を高める授業改善の研修や共通実践の徹底が必要だと考えられる。	・①について、問題提示の仕方や見通しのもとせ方を工夫し、児童がしっかりと課題をつかめるように授業を組み立てる。 ・②③④について、「授業づくりシート」を活用した教材研究を徹底し、授業の終末に学びを自覚する振り返りの時間を充実させることで、②③への意欲を高める。また、めざす姿を児童と共有し、評価を見るる化することで認め励まし、児童に達成感を味わわせる。 ・⑥について、2学期に実践した「聞くって大切プロジェクト」をはじめとする取り組みのなかで、強化するポイントを焦点化して共通実践を徹底する。	
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	92	96.8	▲	4.8	100	94.7	▲	-5.3			
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している	67	94	▲	27	91.7	91	▲	-0.7			
			④ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている	92	94.9	▲	2.9	100	90.8	▲	-9.2			
			⑤ 一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、児童の資質・能力がどのように伸びているかを、児童生徒自身が把握できる	92	99	▲	7	91.7	91.8	▲	0.1			
			⑥ 聞くことの大切さを理解し、児童の聞く力を高める授業改善に努めている	100	▲	▲	▲	100	▲	▲	▲			
	学力の定着	学力調査・教科	①②⑤の項目を80%以上にする	① 学力調査の自校採点の結果は全教職員で共有し、経年的な分析に基づいて、重点目標や具体的な取り組みが設定されている	100	▲	▲	▲	100	▲	▲	▲	・学力調査の結果に基づいて、文法や計算の力の定着を目指して、授業や帯タイムの取組を進めてきた。12月の学力調査の結果に成果が表れてきている。 ・単元末テストの状況については、平均点は86.4%と1学期末に比べ向上しているが、平均が80点以上の児童の割合が78.4%となっており、2極化が進んだ可能性がある。	・12月の調査の結果も踏まえ、弱点克服を重点目標に据え、授業改善や帯タイムでの取り組みを進める。 ・1月に計算力強化の取組を行い、どの児童にも基礎基本の力が確実に定着するようにする。
				② 学力の重点目標や取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている	92	▲	▲	▲	100	▲	▲	▲		
				③ 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている	83	▲	▲	▲	91.7	▲	▲	▲		
				④ 学力調査の結果や分析について、近隣等の中学校と成果や課題を共有し、教育課程に関する共通の取組を行っている(小中連携)	75	▲	▲	▲	75	▲	▲	▲		
⑤ 基礎的な学力が定着し、各単元末のテストの平均点を80点以上とする。				80	▲	▲	▲	78.4	▲	▲	▲			
家庭学習		②③の項目を80%以上にする	① 自分で計画を立てて勉強している。(3年以上)	61	94.9	65.1	33.9	100	88.7	73.9	▲	・教科書を使って学習することについて評価が低くなった。家庭学習強化週間等での指導が弱かったのではないかと考えられる。 ・どの教員も家庭学習の評価・指導については十分取り組んでいる。	・2月の強化週間も含め、家庭学習に教科書を使用して復習することを意識して指導していく。 ・引き続き、児童の家庭学習での努力を評価することにより、学習に対する意欲の向上につなげていきたい。	
			② 予習・復習やテスト勉強などの自学学習において教科書(授業でのノート・資料等)を使いながら学習している(3年生以上)	100	96	▲	-4	100	88.8	▲	11.2			
			③ 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。	91	▲	▲	▲	100	▲	▲	▲			
			集計	84.0	95.5	65.1	11.5	100	88.8	73.9	▲			11.25

平成29年度小松市立月津小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（8月提出）	取組の成果と課題（3月提出）
生徒指導	児童・教職員で「行きたい学校づくり」を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からの6年生の月津防衛軍、5年生の挨拶ふやし隊に加え、朝活動の時間を設け、全校児童が誰かのために活動する時間を毎日設けるようにしている。その効果もあり、児童アンケートでは、肯定的な評価は97.4%であり、徐々に定着してきている。今後はマンネリ化しないよう、目的を児童らと共有した上で、主体的に活動できるように環境を整えていくことが大切である。 ・挨拶に関しては97.4%の児童が自分たちの挨拶を肯定的に評価しているが、毎朝の挨拶運動では目的意識の希薄化が感じられる。全校であいさつやありがとうを言い合う良さを再確認し、推進していけるような機会を児童会を中心に設けていきたい。 	<p>ハッピーフェスティバルや思いやりの木などの取り組みを通して「ありがとう」の言葉を意識することができた。また、朝活動の時間に低学年や中学年の大きな挨拶が響いていたり、高学年が続けてきた挨拶の取り組みが広がり学校全体で意識を高めることができた。</p> <p>今後の課題としては、防犯隊や地域の方、来校者に対して自分から挨拶できる子が少ないことが挙がる。また朝活動など日々の取り組みのマンネリ化も課題であり、目的意識を失わないような、励まし認めていく声掛けが必要である。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「行きたい学校」は全員の力でつくるという共通理解のもと「人を幸せにする活動」に全校児童が取り組むようにする。 ・あいさつの活性化、特に「ありがとう」の言葉が多く聞こえる学校にする。 		
特別支援教育	全校的な特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童理解の会を工夫して行い、組織的な対応」について、学校評価の教員アンケートでは、そう思うが62%、どちらかと言えばそう思うが38%であった。二学期は、「気になる子への対処の仕方」等について研修を行い、組織的な対応を図れるようにしていくことが大切だと考える。 ・特に気になる子については、専門機関と早急に連絡をとって対処していくことが重要である。 	<p>各担任から気になる子がいるという相談を受けた場合、校内特別支援委員会を開催したり、保護者と専門機関に早急に連絡をしたりして組織的に対処してきた。その結果、教職員アンケートでは「そう思う」が15%増加した。</p> <p>今後、さらに発達障害について理解を深め、支援の方法等についての研修会を行い、意識の向上に努めていくことが大切である。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解の会の持ち方を工夫し、気になる子への対処の仕方について共通理解を深め、組織的な対応ができるようにする。 ・校内委員会を効果的に設定し、関係機関との連携を密にすることで、課題の早期解決を図る。 		
道徳教育	道徳教育の充実に向けた基盤をつくる	<p>道徳の教科化にむけて、道徳教育の目標や評価についての研修を受け、情報や資料を集めた。それを活用して、道徳の目標や評価、授業についての校内研修を夏休み中に行う予定である。道徳の授業については、考え、議論する授業実践ハンドブックを活用した研修を行い、重点項目において学習指導案をたて、2学期以降に各学級1授業を行う。その実践を別葉にまとめる。</p>	<p>道徳教育の目標や評価についての資料を配布し、共有した。また各学級で道徳の重点項目について授業を行い、その授業実践を学習指導案として保存できた。さらに来年度の道徳の教科化に向けて重点項目を見直し、本校独自の道徳年間計画や別葉を作成した。来年度は、それらを活用し、道徳の授業が「考え、議論する道徳授業」になるよう研修等を通して、道徳の授業を充実させていくことが課題である。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・次期学習指導要領の内容項目や評価について、先進校等から情報及び資料の収集を行う ・考え、議論する授業実践ハンドブック等を活用した学習会の開催 		
キャリア教育	基礎的・汎用能力の育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・「話をよく聞く態度を身につけること」について、4月に指導主事を招聘した校内研修を実施し、共通理解を図った。研修後は、実践しやすいように指導項目を記したチェックカードを全教員がもち、指導にあたった。しかし、学校評価の教員アンケートでは、「友だちの話や考えが分かるように最後まで聞いている」と思う教員が71.4%に対し、児童アンケートでは99.4%と高く、今後も目指す「聞く姿」の共有を図らなければならないと考える。 ・朝の活動では、それぞれに課題を持ち、ボランティア活動や委員会、学級の係活動に取り組めるようになってきている。マンネリ化させないことと、教師から与えられた課題ではなく、周りの状況を見て自分で課題設定できる児童を増やすことが今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期初めに短期検証形式で「聞くって大切プロジェクト」を実施し、学級ごとに聞くめあてを決め達成できるよう取り組んできた結果、児童がよく話を聞くようになってきたと感じられるようになった。しかし、その後学級により児童の肯定感はやや中間より6.5%低くなり、反対に職員の肯定感が14.6%高くなった。「聞く姿」の共有がなされたことは良かったが、学級により違いが出てきたことが課題である。 ・朝の活動は軌道に乗りつつある。低学年まで活動が広がり、高学年も委員会や自主的な活動が見られるようになってきた。教師が見て認めることで児童のやる気が育っている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業等で友だちの話をよく聞く態度を身につけることで人間関係形成・社会形成能力の涵養を図る。 ・朝活動とそうじの時間の目的を児童の課題設定、課題発見、意思決定の場面と設定し、課題対応能力の涵養を図る。 		
保健健康教育	安全に関する指導の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（火事・地震）を行い、災害時の初期対応の研修を深めた。今後は、その反省を安全・防災にさらに役立てていけるよう見直しを図っていかなければならない。 ・危機管理マニュアルについては、夏季休業中に地域合同で大学の教授を招いた防災研修を行い、見直しを図る。 ・児童アンケートからヘルメットの着用率は72.7%で、昨年度よりは上がったが、まだ約20%の児童が着用していないという現状であった。教職員アンケートでも「家庭と連携を図って取り組んでいる」割合も低いので、引き続き児童に指導するとともに、PTAとも連携してヘルメット着用の大切さを伝えていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3回の避難訓練（火事・地震・不審者対応）を行い、教職員も児童も災害時の対応について学ぶことが出来良かった。今後は、専門家のアドバイスなどを参考に、本校にあった研修を深めていかなければならない。 ・安全指導において、教職員と保護者の間に大きな差が見られた。日頃から家庭に啓発するとともに、児童が危機意識を持って安全に対応できるよう、分かりやすく話をしていく必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の初期指導体制の充溢を図るという視点から危機管理マニュアルの見直し・初期対応の研修を行う ・自転車に乗る時のヘルメットの着用率を高める 		
家庭・地域との連携	実践活動を通して連携を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・「お手伝いの促進」「ヘルメット着用の向上」について、学級懇談会の話題にしたり、広報誌で啓発したり、会長の話の中に盛り込んだりしてきたため、実践している割合は昨年度より増えている。今後も継続し、さらに学級代表委員会等からのアプローチも考えられる。 ・6月に地域の避難所設営委員会に参加した。8月に地域合同防災研修を開き、町内会長や防災士が参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級懇談の度に「お手伝い」や「ヘルメットの着用」を話題に取り入れてきたので、職員は家庭と連携して推進していると思っているが、児童の実態として実践している割合は減った。今後も学級懇談で話題にすることはもちろん、児童に直接働きかける機会を増やしたり、お便り等で呼びかけたりしていきたい。 ・地域とは特に防災においてよい連携ができています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とは「お手伝いの促進」「ヘルメット着用の向上」という具体的実践を通して連携を深める。 ・地域とは、合同防災訓練実行委員会を開き、今年度は「災害時の初期体制」をテーマに研修機会を設け、連携を深める。 		

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメット着用やあいさつについては、地域で見ているとアンケートの数字よりもよくなってきている。ヘルメット着用も大切だが、交通事故に合わずに済む指導をしてほしい。また、学校で決めたことであるから、規則を守るという意味で守らせたい。あいさつについては、毎日子ども達のために一生懸命に見守って下さる防犯隊の方に特に感謝の意を表すことを指導してほしい。地域と一緒に、たくさんの人に感謝できる子どもに育てていきたい。 ・月津小の子ども達にはもう少し積極性があっていいのではないかなと思うので、「聞く」ということはとても大切なことであるが、同時に「話す」ということも大切に指導してほしい。 ・「お手伝い」について、最近は親がさせないことが多いので、学校で子ども達に何のために手伝いをするのかという指導をすると効果が上がる。 ・中間評価や最終評価は、1年間の変化だけでなく、昨年度と比較し、その違いもわかるとよいのではないかな。 ・登下校のやり方は、今のままでよいと思う。集団登校を望んでいる人がいるが、その人たちには、他の学校では集団登校のデメリット（車が突っ込むと大事故になる、時間に集まれない子が 出てくる、いじめ等の問題が起きやすい）等についても伝えていくとよい。機会があると良い。 ・子どもは自分の思い込み等を家庭で話すことがよくある。そういうことも踏まえて、職員は言葉遣いに気を付けていくとよいのではないかな。 <p>【最終評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員、児童、保護者ともに肯定的な割合が高く、学校がうまく回っていることがわかる。「学校は楽しいところであるべき」という校長の方針が生き、学校が一つになっている。 ・教育は、学校だけでなく、保護者や地域の三位一体で行うものである。今後も地域の良さや感謝の気持ちを伝えながら、ともにやっていると良い。 ・挨拶については、地域でも子ども達はしているが、なぜ挨拶が必要かを折に触れて伝えて欲しい。挨拶をはじめとする取組について、「地域の人も『よかったよ。』と言ってたよ。」等と児童にフィードバックするとさらにやる気が増すので、是非そういう指導もしてほしい。 ・ヘルメットの着用だけでなく、安全な自転車の運転についても指導してほしい。 ・「6年生を送る会」を見て、学校の取組が伝わってきた。また、児童の創造力や発表力が、昔と比べて随分と向上していることが分かった。 ・保護者からの意見として挙げられた親子レクリエーションの在り方については、今後育友会で考えると良い。 ・児童の登校時、子ども園の送迎が多くて危ないので、こども園とも連携を図ると良い。
---------	---